

## 2025年度(第23回)高峰記念第一三共賞候補者推薦要領

### 1. 趣旨

本賞は、2003年に褒賞事業として創設したもので、財団出捐母体である第一三共株式会社に縁が深い高峰譲吉博士の研究業績を顕彰して命名したものであります。

### 2. 候補者

日本国内において、生命科学分野での基礎・臨床研究並びに技術開発、特に疾病の予防と治療の進歩・発展に顕著な功績をあげた研究者(同一分野での複数名の同時推薦も可)や団体

(個人に限定せず様々な形での推薦を受け付けます。学士院賞、文化功労者などで顕彰・受賞された方のご推薦はご遠慮ください。)

### 3. 推薦者

当財団の理事会において指定された学会・大学大学院研究科長・研究機関長並びに当財団の役員等及び本褒賞受賞者

### 4. 推薦方法

(1) 所定の推薦書に必要事項を記入し、候補者の業績を端的に示す論文2報のPDFファイルを添付して、当財団窓口(ds-zaidan@daiichisankyo.co.jp)までメールにてご送付いただくか、またはその印刷物を当財団宛にご郵送ください。

なお、推薦書雛形のWordファイルを必要とされる推薦者は、当財団ホームページ(<https://www.ds-fdn.or.jp>)・「各種推薦書」の「高峰賞推薦書雛形」からダウンロードしてください。

(2) 複数の候補者を推薦できます。

(3) 自薦は不可とし、かつ候補者本人の応募意思の確認は不要です。

### 5. 推薦期間：2024年12月1日～2025年1月31日

### 6. 選考方法

(1) 推薦された候補者(第一次候補者)の中から、書類選考により第二次候補者の絞込みを実施します。

(2) 第二次候補者に対し、応募の意思を確認したうえで審査に必要な応募申請書の提出を依頼します(2025年4月)。

(3) 高峰記念第一三共賞審査委員会において最終候補者を選定し、理事会において受賞者を決定します。

7. 褒賞の方法及び贈呈

- (1) 賞状、賞牌並びに副賞（2,000万円）、贈呈数は1件
- (2) 贈呈式は2025年12月頃に実施予定

8. 個人情報保護に関する事項

- (1) 当財団は、個人情報保護法及び当財団の個人情報保護方針に基づいて、システム利用者に係る個人情報を適正に保護し管理を行います。当財団の個人情報保護方針は、以下のウェブサイトに掲載しています。

<https://www.ds-fdn.or.jp/pdf/p-policy.pdf>

- (2) 当財団が本件候補者に関して取得する個人情報は、選考作業など本賞審査に関する業務に必要な範囲に限定して取り扱います。
- (3) 当財団は、本件受賞者が決定した場合、受賞者に関する情報を当財団が作成するホームページ、事業報告書及び記念誌等にて一般公開するほか、公益財団法人助成財団センターに提供します。
- (4) 申請書は、採否にかかわらず一切返却しません。

9. 本推薦要領に関する連絡先（お問い合わせはE-mailにてお願いいたします。）

公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団

〒103-8234 東京都中央区日本橋3-14-10

E-mail : ds-zaidan@daiichisankyo.co.jp

ホームページ <https://www.ds-fdn.or.jp>

高峰記念三共賞及び高峰記念第一三共賞歴代受賞者・受賞研究

| 年度            | 氏名(所属機関は受賞時)  | 受賞研究  |
|---------------|---|---|
| 第1回<br>2003年  | 北村 幸彦 教授<br>大阪大学大学院生命機能研究科                              | 肥満細胞とカハール介在細胞の分化と癌化   |
| 第2回<br>2004年  | 門脇 孝 教授<br>東京大学大学院医学系研究科                                | 2型糖尿病の分子機構の解明   |
| 第3回<br>2005年  | 坂口 志文 教授<br>京都大学再生医科学研究所                                | 制御性T細胞による免疫応答制御の研究  |
| 第4回<br>2006年  | 柴崎 正勝 教授<br>東京大学大学院薬学系研究科                               | 原子効率の革新を志向した不斉触媒の創製   |
| 第5回<br>2007年  | 満屋 裕明 教授<br>熊本大学大学院医学薬学研究部                              | AIDSに対する治療法の研究・開発   |
| 第6回<br>2008年  | 山中 伸弥 教授<br>京都大学物質-細胞統合システム拠点                           | 多能性幹細胞の維持と誘導  |
| 第7回<br>2009年  | 杉山 雄一 教授<br>東京大学大学院薬学系研究科                               | 薬物体内動態における薬物トランスポーターの役割解明-薬物動態の定量的予測を創薬に活かす-                      |
| 第8回<br>2010年  | 河岡 義裕 教授<br>東京大学医科学研究所                                  | インフルエンザ制圧に関する研究   |
| 第9回<br>2011年  | 間野 博行 教授<br>自治医科大学分子病態治療研究センター                          | 肺がん原因遺伝子の発見と分子診断法・分子標的療法の実現                                       |
| 第10回<br>2012年 | 岩坪 威 教授<br>東京大学大学院医学系研究科                                | アルツハイマー病における $\beta$ アミロイド形成機構・抑制薬に関する研究並びに画像・バイオマーカーを用いた治療薬の開発研究 |
| 第11回<br>2013年 | 山本 雅之 教授<br>東北大学大学院医学系研究科                               | 環境ストレスに対する生体応答メカニズムの解明  |
| 第12回<br>2014年 | 山本 一彦 教授<br>東京大学大学院医学系研究科                               | ヒトの自己免疫疾患における抗原特異的免疫応答に関する研究                                      |
| 第13回<br>2015年 | 一條 秀憲 教授<br>東京大学大学院薬学系研究科                               | ストレスシグナル分子機構の解明と創薬医療科学基盤の創成                                       |
| 第14回<br>2016年 | 水島 昇 教授<br>東京大学大学院医学系研究科                                | オートファジーによる細胞内分解の分子機構と生理・医学的意義に関する研究                               |
| 第15回<br>2017年 | 小川 誠司 教授<br>京都大学大学院医学研究科                                | 成人T細胞性白血病の分子基盤とがんの免疫回避に関わるメカニズムに関する研究                             |
| 第16回<br>2018年 | 井ノ口 馨 教授<br>富山大学大学院医学薬学研究部                              | 記憶の連合とアイデンティティの物理化学的実体とメカニズムに関する研究                                |
| 第17回<br>2019年 | 柳沢 正史 教授・機構長<br>筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構                       | 生体ホメオスタシス制御機構の解明と疾患治療への応用   |
| 第18回<br>2020年 | 岡野 栄之 教授<br>慶應義塾大学 大学院医学研究科                             | 神経幹細胞の基礎研究と臨床応用   |
| 第19回<br>2021年 | 濱田 博司 チームリーダー<br>理化学研究所生命機能科学研究センター                     | 哺乳動物の胚発生の基本的な仕組みの研究   |
| 第20回<br>2022年 | 大野 博司 副センター長<br>理化学研究所生命医科学研究センター                       | 宿主-腸内細菌相互作用の統合的理解に関する研究   |
| 第21回<br>2023年 | 藤堂 具紀 教授<br>東京大学医科学研究所先端医療研究センター                        | 遺伝子組換えウイルスを用いたがんのウイルス療法の開発研究                                      |
| 第22回<br>2024年 | 竹田 潔 教授<br>大阪大学大学院医学系研究科<br>本田 賢也 教授<br>慶應義塾大学 大学院医学研究科 | 宿主と腸内細菌叢の相互作用に関する先駆的業績  |